

# 熱い声援、バンクーバーに届け！

町内では、中島選手の地元広幡公民館に大型スクリーンが設置され、集まった地元の人や中島選手の同級生がカナダに届けとばかりに精いっぱい声援を送っていました。

日本とバンクーバーとの時差は17時間あり、予選開始は朝早い5時30分でしたが、同級生を中心に約120人が集まりました。

中島選手が登場すると日の丸の小旗が振られ、会場はヒートアップ。中島選手が一つジャンプを決めるたびに「よし！」「行け！」という声がかけてられました。予選1回目終了時点で、高順位の10位という速報が入ると会場には安堵感が漂っていました。

9時から行われた準決勝は平日の午前ということで、同級生は少なくなりましたが、代わりに中島選手の母校、広幡小学校全児童が集まりました。中島選手や山岡選手が登場すると、児童から「ニッポン、ニッポン」の声が上がりました。先輩の中島選手が登場すると、児童たちはスクリーンを見つめ、より一層の声援を送っていました。

中島選手が果敢に挑んだ準決勝の2回目。大きなジャンプにかけられていた歓声は、転倒で悲鳴に変わりました。しかし、会場の人からは「よくやった」「ありがとう」などのねぎらいの声と大きな拍手が寄せられました。



▲予選の応援を終えた同級生。



▲朝早くから多勢の人が応援にかけつけました。



## 稲葉町長のコメント

あと少しのところだという思いです。準決勝の1回目は、予選の時より高得点でしたが、2回目で転倒してしまい、準決勝7位とあと一歩でした。オリンピックという大舞台の緊張もあったかもしれませんが、ですが、これまでの練習は大変だったと思いますので、今は「ご苦労様でした。」という思いで一杯です。



▲準決勝では広幡小学校の全児童が応援しました。